

卯ノ里



R 4 . 7 . 2 0



大人の価値観と子どもの感性

校長 増田 行泰

先日実施した個別懇談会におきましては、ご多用の中、ご来校いただきありがとうございました。限られた時間の中ではありましたが、子どもたちのがんばりや成長の様子に加え、さらなる成長に向けての課題などについて、担任とともに確認させていただくことができたのではないかと思います。

ご家庭におかれましても、本日配付させていただいた「はばたき」を基に、お子様と一緒に1学期を振り返り、1学期の成長を認めるとともに、さらにやる気を引き出すような励ましをいただければ幸いです。

さて、子どもたちにとって待ちに待った夏休みが始まります。この夏休みを有意義なものにするために、「ふだんできないことに挑戦しなさい」とよく言われます。もっともなことですが、その土台になくならないのが、「興味関心」です。

先日、「虫が気持ち悪いと言わないで!」というタイトルのつけられた掲示物が話題になっているという記事を目にしました。沖縄子どもの国(那覇市)で行われている企画展「小さな先生たち」に訪れた保護者に向けてかかれたもので、その掲示物には、ハチやガなど、園内で見られる9種類の昆虫の写真とともに、以下のような文章がつけられています。

虫に対して「気持ち悪い」「きたない」「こわい」と、お子様の前で言わないでください。虫たちは美しく、素晴らしい能力を持っている生きものです。保護者の方が「気持ち悪い」というと、この価値観はずっとお子様に植え付けられてしまいます。ひとそれぞれの好みはありますが、生きものが持つ魅力を感じた上で、お子様自身から出てくる感情を大切にしてください。

私たちは、知らず知らずのうちに自分の価値観を子どもに押しつけていることがないでしょうか。子どもたちは大人の反応に敏感です。虫について言うと、春になると、ときどきパンジーに黒とオレンジ色をしたとげとげがいっぱいある毒々しいイモムシがついていることがあります。これは、ツマグロヒョウモンというオレンジ色に黒いまだらのある蝶の幼虫で、毒はありません。その見た目から、子どもたちは当然気持ち悪がります。ここで「気持ち悪いね」と言ってしまえば、子どもたちがそのイモムシに触れることは一生なくなると思います。しかし、毒がないことを伝え、触って見せてやると、ほとんどの子は怖がらずに触れるようになり、中には、かわいいと言って、喜んで手の上に乗せて遊びだす子も見られます。

私事になりますが、私の実家では納豆が食卓に並ぶことは決してありませんでした。ある日見たテレビCMで、俳優さんがとてもおいしそうに納豆を食べているシーンがあり、母に「納豆が食べてみたい」と言ったことがありますが、「あんな臭いものは、人の食べるものじゃない」と即座に却下されました。それ以来、私の頭の中には「納豆は臭くてまずいものだ」とインプットされました。

このように、大人は、子どもが自分の望んでいない反応を起こしたときに、即座にそれを否定しがちです。その反応が明らかに間違っているときには、それで構わないと思いますが、そうでないものについては、子どもの好きなようにさせてみるということも大切だと思います。実際に、納豆に対する興味関心を捨てきれなかった私の家の冷蔵庫には、現在納豆が常備されています。

興味関心は、学びへの入り口です。私たち大人が子どもたちの学びの芽を摘んでしまうようなことがないよう、押しつけではなく子どもたちの興味関心を大切にしたい支援を心がけたいものです。そんな中で、子どもたちが自分の本当にやりたいことを見つけてくれたら最高だと思います。